



読字英原田 親

No. 573

2009/5/5

日中友好新聞

発行所
日本中国友好協会
〒113-0045 東京都千代田区
西船場1-1-1 東武ビル3階

日中友好協会
岡山支部
〒700-8236
岡山市東区3-8-30 511
TEL:0861272-3010
郵便番号11所
01250-0-3835

日中友好協会
倉敷支部
〒713-8011
倉敷市連島中央1-8-1
(宮地方)
TEL/FAX:0860416-2711

日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://rizhong.web.infoseek.co.jp>
メールアドレス
rizhong86@hotmail.co.jp



宗景正写真展・大成功のうちに終る

祖国よ！ 中国「残留日本人孤児」はいま



取材を受ける岡山原告団三役(高杉、大森、高見)

4月20日から22日まで、岡山市役所(北区)で開かれた宗景正写真展は、3日間で県内各地から300人を超える人々が参観し、大成功のうちに終わりました。

今回の写真展のねらいは「祖国よ 中国 残留日本人孤児」はいまのタイトルが示すように、新支援法が施行されて1年を経過した現在の「孤児の姿」を伝えることでした。岡山の原告団三役(高杉・大森・高見)の写真は、今年の三月から四月上旬にかけて撮影された表情です。

宗景さんは、写真展のあいさつ文の冒頭で次のように述べています。

「甲国残留孤児」この言葉は多くの方々にとつて、もう遠い記憶のあなたにあるものかもしれません。全国約2200人の孤児たちが生活の保障と国家による謝罪を求めて国賠訴訟の裁判を起こしたのは、今から6年前の2002年12月のことです。その後、政府から新支援策が提示され、

孤児たちがそれを受け入れたことで、問題はすべて解決した——そう思われている方もいると思います。しかし、孤児たちの日々の生活は依然、深刻な問題を残したままです。

そして、今回は「孤児」達の半生を聞き取り、現在の生活取材し、私たちが日本人が決して忘れてはけない歴史、今孤児が置かれた状況を、改めて多くの方に知っていただきたいと願っています。」と結んでいます。

今年の展示は、岡山市福祉援護課長補佐の神原さんから打診があり、私が宗景さんに依頼し、実現しました。岡山市は、新支援法に基づき市の啓発活動の一環として位置づけているようです。日中友好協会岡山支部も、昨年の展示物に一年間の支援活動(日本語教室・中国帰国者との交流)の姿を追加して、展示しました。山陽新聞は、全県版で事前に「瞬の表情に刻まれた苦悩」と題するカラー写

真付きの予告記事を記載しました。OHKは、二十日に展示会場で岡山原告団三役と宗景さん取材し、夕方のスーパーニュースで放送しました。KSBは、今後「孤児」問題の特番を作るために取材に訪れました。

赤旗も予告記事と展示終了後の中国・四国のページで「訴訟通じ理解広がる」「二世・三世の暮らしがよくなるように」の見出しで、レポートを写真付きで記載しました。参観者の数やマスコミ報道を通じて、展示会のねらいは、一定程度達成されたと思っています。

今後、岡山関係の展示物は、日中友好協会岡山支部が市から依頼され保管し、貸し出す計画にしていきたいと思います。当面は、岡山市高島公民館で、六月十六日から三十日まで展示される予定です。こうした取り組みを通じて、いま私たちに求められているのは「孤児」達の戦争体験と現状への正しい理解を深め、中国語を話し、中国文化を身につけた日本人を温かく受け入れ、ともに生きていく努力をし、かれらの心からの叫びである「生涯友達だよね！」に応えることです。

小林軍治



宗景さんと高見さん

写真展について

昨日、市役所へ用事で行きかけた際、玄關ロビー(ギャラリ?)で年輩の女性からそつとパンフレットを渡されました。パンフレットを見ながら、付近を見渡したところ、宗景正氏の「中国 残留日本人孤児」の写真展が開かれていました。

私は、写真展が見たかったので、先を急いでおりましたので、拝見できませんでしたが、帰宅して、早速パンフレットに目を通しました。

私は、71歳の老人ですが、残留孤児のことは、新聞等で少しは理解していたつもりですが、記事を見て、改めて関係者のご苦労に大変頭の下がる思いが致したところです。

今後、この問題が一日も早く完全解決がなされますよう、祈念する次第です。と同時に私も、前にも増して関心を寄せて参りたいと思っております。

小西正倫

メールでお便りいただきました。有難うございます。

遙かなる絆を観て

井上愛子

城戸幹さんが養母に引き取られた場面、養母のゆるぎない愛情、そして養父の熱心に教える姿に深く頭が下がりました。

私は戦後八年間中国人民解放軍の医療工作に携わり四年間はあのテレビの農村風景にとてもよく似た田舎にいましたので老百姓の人達の会話が懐かしい限りでした。玉福さんは近所の小父さんが小鬼子と罵るので仕返しに蛇を豚にめがけて投げ入れた。実に痛快きわまりない事、子どもならではの仕業。頑張つて勉強、天晴れ中学へ。お金が無くて養母の奔走のおかげで国より支給とはなんと幸運だった事か次回を楽しみにしている所です。



第15期中国語講座

入門クラスの講座が1クラス増えて3クラスになりました、そのために入門クラスの曜日と会場が変更になりました。

第15期は09年4月から9月までの半年間です。

クラス	開講の曜日と時間	会場
入門クラス	毎月曜日 18時半～20時半	旭公民館
入門クラス	毎木曜日 18時半～20時半	旭公民館
入門クラス	毎金曜日 18時半～20時半	岡輝公民館
初級(昼間)	毎火曜日 13時半～15時半	旭公民館
初級	毎火曜日 18時半～20時半	岡輝公民館
初級I	毎木曜日 18時半～20時半	旭公民館
初級II	毎金曜日 18時半～20時半	旭公民館
中級	毎金曜日 18時半～20時半	大元公民館
上級	毎月曜日 18時半～20時半	大元公民館

受講料は、入門～初級IIは月額3,500円、中級・上級4,000円、日中正会員はそれぞれ500円安くなります。高校生以下は2,000円です。

幡多小学校

「慰霊碑」問題を考える集い

4月25日、表記の研究会在東公民館で開かれました。岡山・十五年戦争資料センターの例会に一般市民も参加できる、という案内チラシで、東岡山平和委員会、地域の共産党支部の方や市議会議員を含む15名が参加しました。

例会では、以下の3つの基調報告を受け、質疑が行われました。

① 幡多小学校慰霊碑問題への取組(藤田滋さん)

② 箕面忠魂碑慰霊祭違憲訴訟と信州大学構内神社訴訟(上羽修さん)

③ 戦没者をどう慰霊するか。幡多「慰霊碑」の持つ問題点をめぐって(難波達興さん)

質疑の中では、次のような意見が出されました。

・「戦没者」とは？「戦死者」とはちがう。兵隊だけでなく、一般市民も多く殺されている、一般市民も含めてすべての戦死者の名前を記して、二度と戦争をしないように「平和記念碑」を作るのであれば意味がある。

・建立場所の問題、なぜ小学校の敷地内なのか？公有地ではないのか？私有地なら文句はいえないか？

・「碑文」がいかにも時代錯誤だ。竣工・除幕式も神事で行われている。

・そもそも、どういう建立主体が作ったのか？なぜ「社協だより」で広報されたのか？

・費用の問題？本当に一軒一軒まわって寄付を集めたのか？小学校や幼稚園が本当に寄付をしたのか？校長個人のカンパなら個人名を載せるべきだ。

・清掃の問題、町内会の順番で清掃するよう提案しているが、おかしいのでは？

・そもそも住民が「集団での碑」を求めているのか？個人の悼む権利はあるとしても。

・この住民は、どこまで知っているのか？どう考えているのか？

などなどの意見が出されました。閉館時間ぎりぎりまで討論が続き、次回問題点を少し整理して、さらに調査活動も行つて地域住民が参加できる集いを開くことになりました。

宇野

シリア・ヨルダンを旅して(2)

真田紀子



旅行に出発して3日目に、ダマスカスのウマイヤド・モスクを訪問しました。シリアだけでなく世界で最も古いモスクだそうで、世界遺産に登録

されています。前日の夕方、その回りに迷路のように広がっているスーク(市場)を歩いていましたので、雰囲気はわかっていました。

朝その場に行ってみますと、観光客で一杯でした。でも、どうも雰囲気が違うのです。理由は女性の服装が妙なのです。それがこの写真です。最初は、なぜなのか気が付きませんでした。

やがてガイドに案内されて女性だけが、別の入り口で、灰色のフード付きガウンのようなものを着るようになってやつとわかりました。ここはイスラムの国で、ウマ

日中文化講座 「いまの中国をどう見るか」

—漫画・映画を通して—
とき:5月16日(土) 午後2時～4時
ところ:県立図書館 2階多目的ホール
参加費:500円(チケットあり)
主催:日中友好協会岡山支部・倉敷支部
共催:岡山県AALA連帯委員会

NO MUSIC NO PEACE

2009 憲法フォークジャンボリー in おかやま
5月17日 11時～18時(開場10時30分)
天神山文化プラザ ホール
出演者:・笠木透と雑花塾・中川五郎・他多数
参加券 前売 3000円 当日 3500円(中学・高校生は半額) チケット取扱 ぎんざやプレイガイド
主催:「憲法フォークジャンボリー in おかやま」実行委員会 協賛:岡山県九条の会

イヤド・モスクは今でも多くの人が祈りをささげる宗教上重要な場所なのです。そこの中へ観光客(異教徒)を受け入れるわけですから、当然のことなのですが、体験してみると、不思議な気持ちになりました。

中へ入ると、すべてタイルで埋め尽くされているとても広い中庭があり、さらに建物の中は天井の高い広い空間に絨毯が敷き詰められ、ほとんど何の飾りもありません。ただ、ステンドグラスはきれいでした。

内部は低い仕切りで女性と男性の通路にわけてあります。観光客の我々だけでなく、自由に行き来ができるようでした。大きな声を出してはいけないのですが、ガイドの説明を添乗員が日本語に訳してくれる程度の声はかまわないようです。

ミフラブ(モスクに必ず設置されているメッカのカーバ神殿の方向を示す窪み状の設備)の近くに洗礼者ヨハネの首を納められているといわれる緑色のガラスで覆われた聖堂がありました。これも不思議ですね。

中には祈りをささげている人もいますが、邪魔をしなければ、写真もすべてOKです。私たちが固まって説明を聞いていると、私たちの方を回りの人たちが眺めています。チャイニーズかと聞いてくる人もいます。特に女性が。絨毯の下にはホットカーペットが敷いてあるところもあるようでした。足の裏が暖かい場所がありました。本当におおらかな気分になれます。

次回の新聞発送作業は
5月21日(木)午後1時半
民衆会館2階で行います。
前回お手伝いくださった方です。

稲葉 小竹内和
小竹内和